

きのつバス利用状況分析（施策の方向性について）

(1) ダイヤ

路線バスの廃止(高の原梅美台線、令和6年4月～)により梅美台・州見台地域のバス利用が減少した。

一方で、きのつバス（木－１）の１運行あたりの利用者数を見ると、木津～市坂南口間は6.6人と、きのつバス全区間で最大となっており、州見台・梅美台地域においても一定の利用が確認できる。

木-1 の利用者数は毎年増えており、特に木-1 の始発便と最終便の利用が多い。

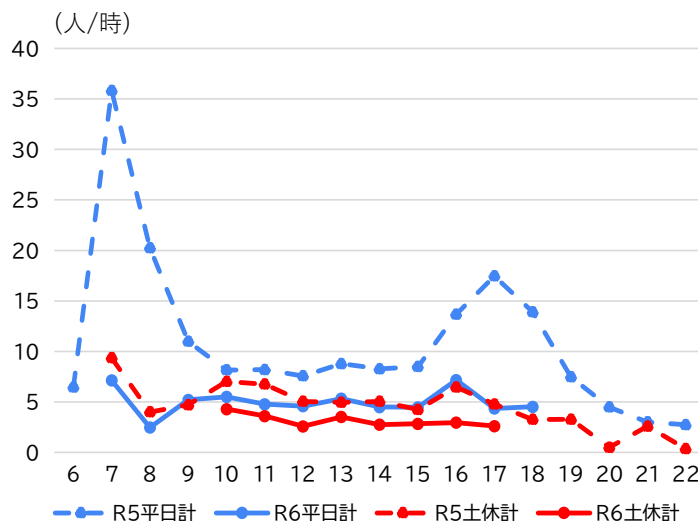


図 降車時間帯別梅美台・州見台地域～木津駅のバス利用

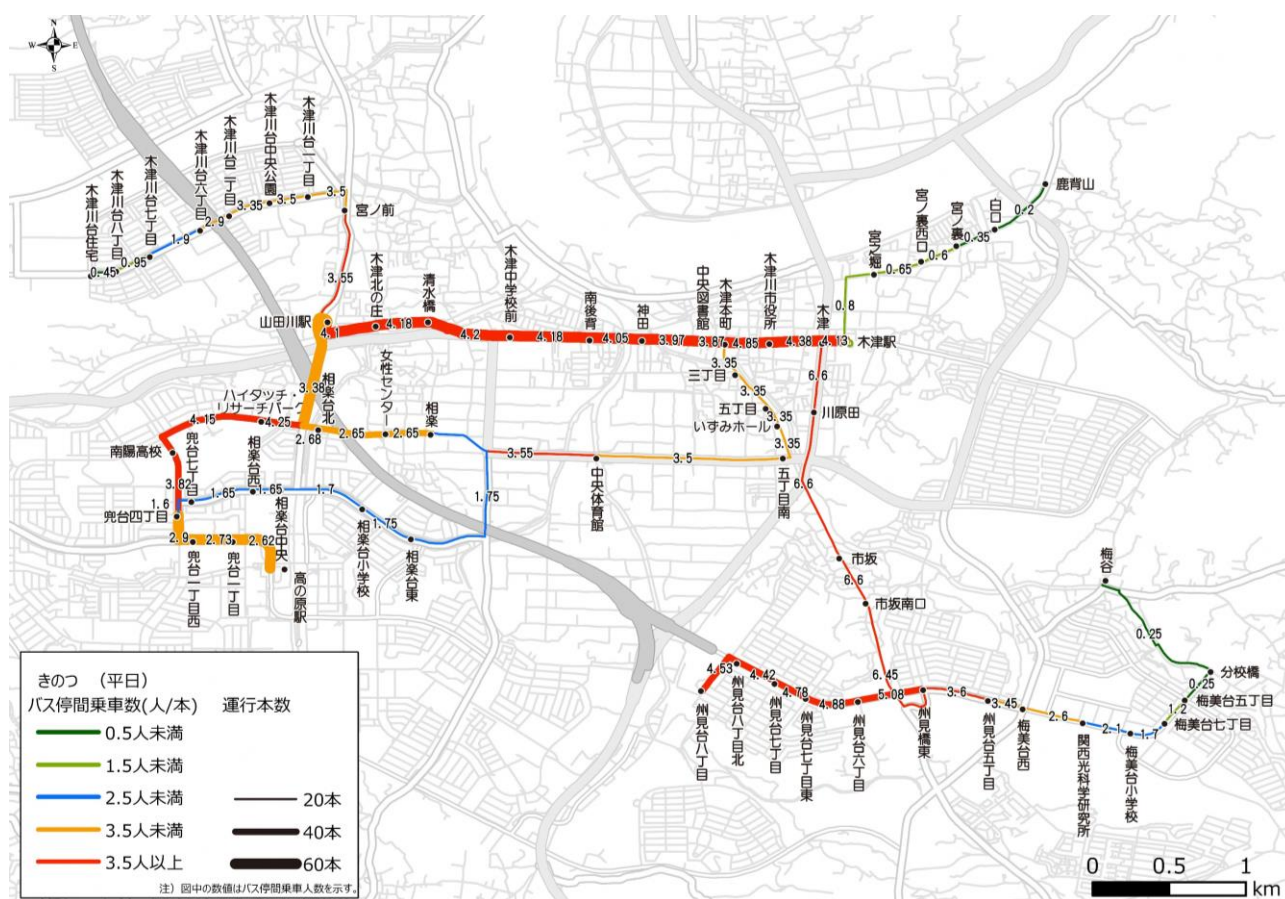


図 1 運行あたりバス停間乗車人数 (R6 平日)

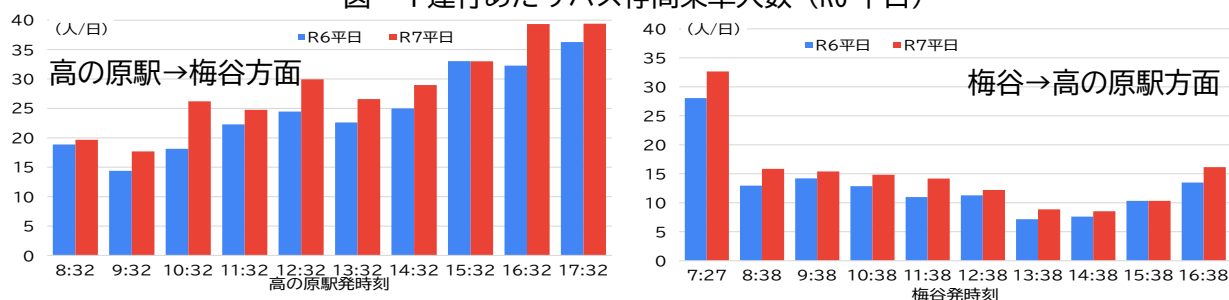


図 木-1 便別利用者数の変化

(2) 運賃施策

運賃半額キャンペーン(令和7年9月～12月)では、新たにバスを利用した人も含め各路線で利用が増え、キャンペーン後の利用者も増えている。

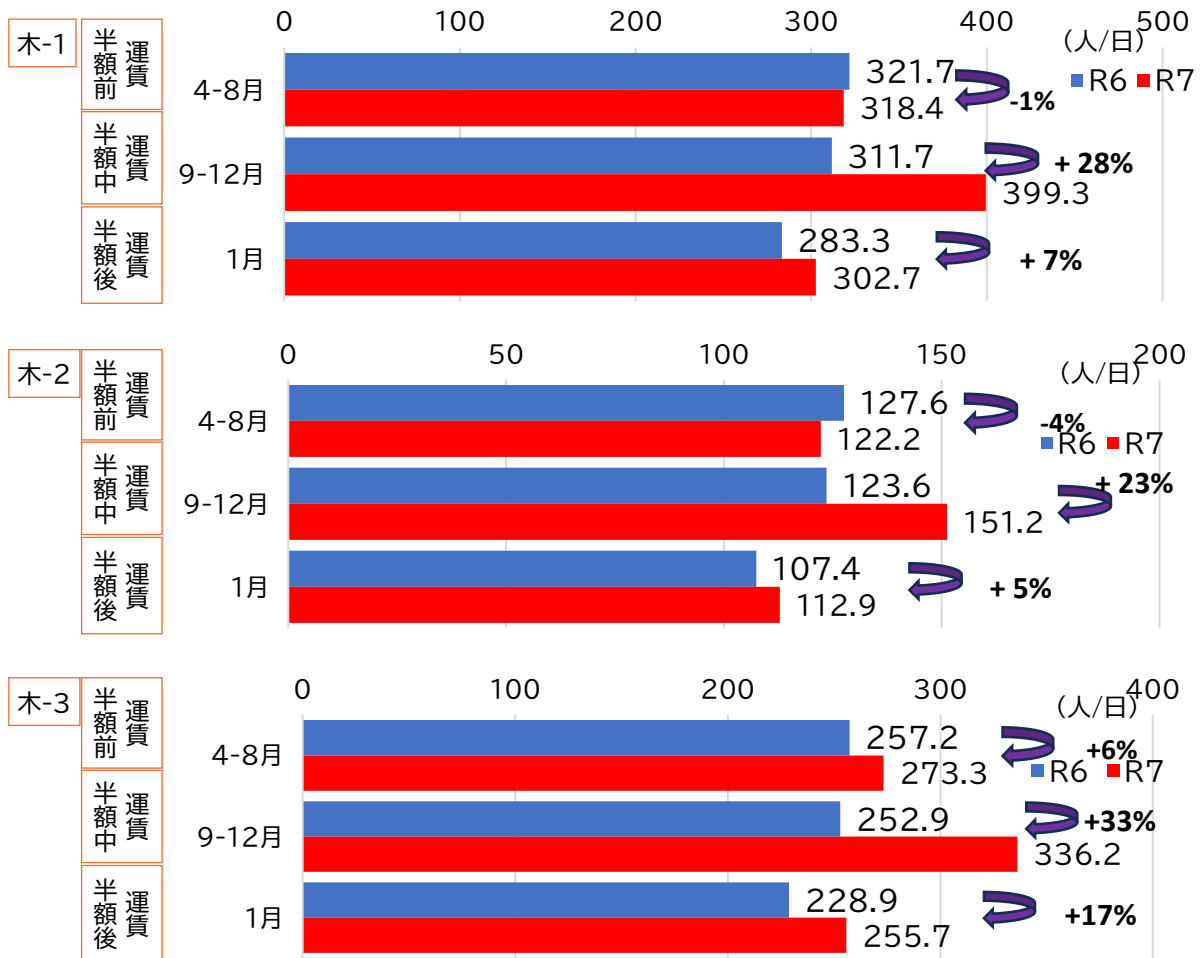


図 路線別1日あたり利用者数(運賃半額前後における前年同期間比)

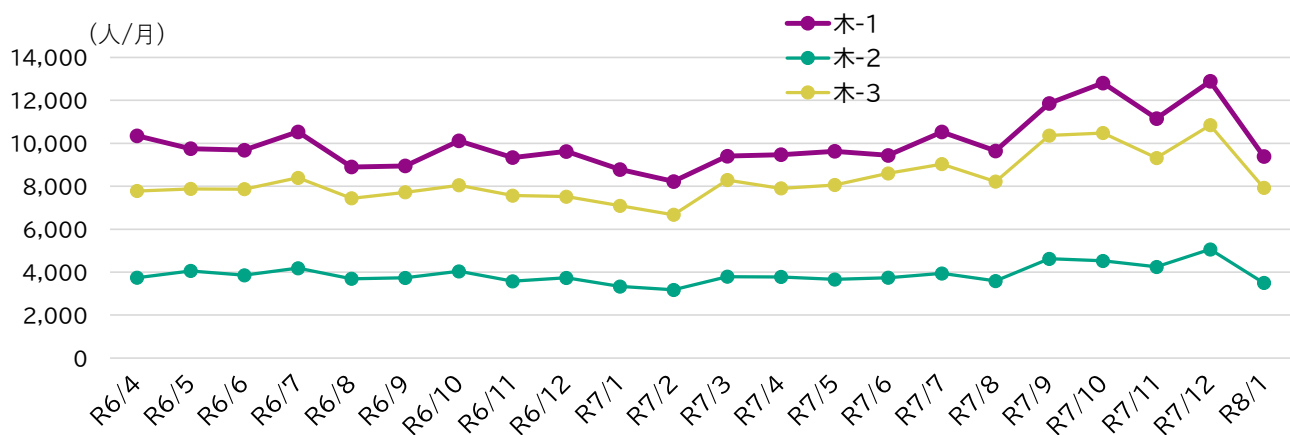


図 R6年4月からR8年1月までの1月あたり利用者数推移(現金利用含む)

運賃半額キャンペーンにより、高の原駅・山田川駅・木津駅の利用が増えた。また、駅以外では、南陽高校バス停の利用が増えた。通学時間帯では、南陽高校の利用が多くみられる。

表 運賃半額キャンペーン前後における1日あたりバス停別乗降客数(人/日)

木-1	平日			木-3	平日		
	R6 9月~12月	R7 9月~12月	増減		R6 9月~12月	R7 9月~12月	増減
梅谷	5	7	2	木津川台住宅	10	10	1
分校橋	0	0	0	木津川台八丁目	10	10	0
梅美台五丁目	17	17	-1	木津川台七丁目	18	24	6
梅美台七丁目	9	10	1	木津川台六丁目	19	26	6
梅美台小学校	6	6	1	木津川台二丁目	9	12	3
関西光科学研究所	10	5	-4	木津川中央公園	4	7	3
梅美台西	13	16	2	木津川台一丁目	8	9	1
州見台五丁目	3	4	0	宮ノ前	2	2	-1
州見橋東	18	23	5	山田川駅	70	93	23
州見台六丁目	11	13	2	木津北の庄	2	2	1
州見台七丁目東	11	9	-3	清水橋	2	2	0
州見台七丁目	6	7	1	木津中学校前	8	10	2
州見台八丁目北	22	27	4	南後背	10	12	2
州見台八丁目	13	14	1	神田	5	6	1
市坂南口	3	4	1	中央図書館	3	4	1
市坂	3	6	3	木津本町	3	4	1
川原田	5	5	0	木津川市役所	21	28	7
木津駅	115	124	9	木津	11	13	1
木津	9	9	0	木津駅	62	79	18
木津川市役所	15	19	4	三丁目	2	2	0
木津本町	3	3	0	五丁目	3	4	1
中央図書館	2	3	1	いずみホール	3	6	3
神田	7	6	-1	五丁目南	9	8	-1
南後背	10	12	3	中央体育館	2	2	0
木津中学校前	11	14	2	相楽	1	0	0
清水橋	1	2	1	女性センター	1	1	0
木津北の庄	3	3	0	相楽台北	2	1	0
山田川駅	36	53	17	ハイツ・リサーチパーク	4	7	2
ハイツ・リサーチパーク	5	8	2	南陽高校	24	30	5
南陽高校	39	44	5	兜台四丁目	6	10	4
兜台四丁目	6	7	1	兜台一丁目西	3	4	1
兜台一丁目西	6	6	0	兜台一丁目	4	3	-1
兜台一丁目	2	3	1	高の原駅	58	78	20
高の原駅	68	83	15				

表 バス停別時間帯別1日あたり降車客数(平日)(人/時)

木-1 (8時台 高の原駅方面)

降車バス停	人数
南陽高校	11.2
木津駅	2.5
高の原駅	1.5
木津川市役所	0.8
山田川駅	0.7
州見台八丁目北	0.3
州見台八丁目北	0.3
木津北の庄	0.2
ハイツ・リサーチパーク	0.2

木-3 (8時台 高の原駅発)

降車バス停	人数
木津川台住宅	4.8
南陽高校	3.2
木津駅	2.8
木津川市役所	1.8
山田川駅	1.1
五丁目南	0.6
木津川台六丁目	0.4
相楽台北	0.3
木津中学校前	0.1

65 歳以上において、運賃半額キャンペーンにより利用が増えたと回答した割合が高かった。

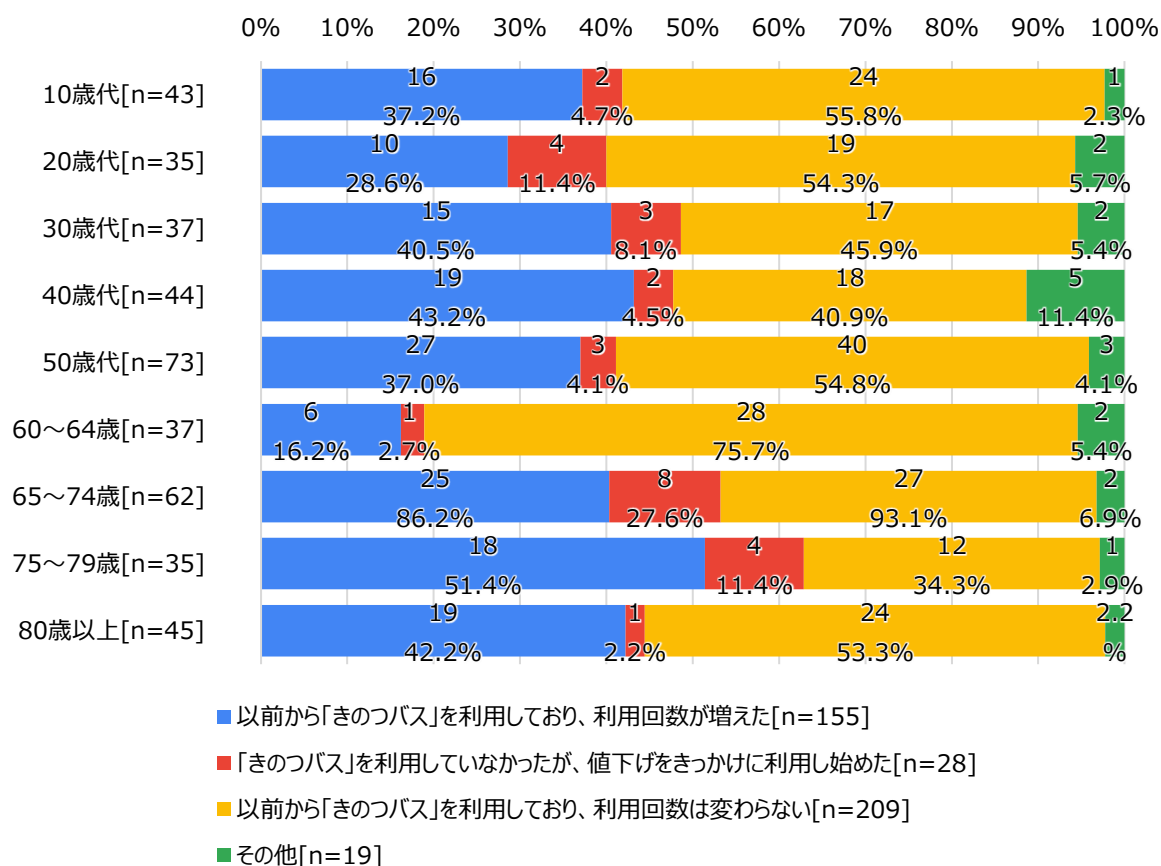


図 年齢別きのつバスの利用変化[n=414]

(3) 分析を踏まえての対応方策案

表 きのつバスの施策検討案

No	大項目	現状(◎は今回の分析・調査で明らかになったこと)	施策	メリット
①	ダイヤ	◎梅美台・州見台では、路線バス 高の原梅美台線廃止後に朝・夜 のバス利用が減少 ◎平日 17:32 高の原発の便は約 35 人の利用	木-1:運行時間拡大	通勤者・通学生の利便 性向上
②	運賃施策	◎運賃半額により、きのつバス全 系統の利用が増加 ◎運賃半額により、新たにバスを 利用した人がいた ◎運賃半額後も利用が増加	一時的な運賃優遇施策 の実施 対象者を絞った運賃優 遇施策の実施(学生・高 齢者等)	バス利用頻度増加 新規利用者の獲得 健康寿命の上昇